

解説 18 「てつがく」って何だろう？

【課題のねらい】

「てつがく」についての固定観念（「難しい」「人生に役に立つ」・・・）にとらわれず、「てつがく」の本質や魅力について考えてみるものです（ここでは、漢字のイメージにしばられないために「てつがく」と表記しています）。というのも、固定観念や常識にとらわれること自体、「てつがくてき」ではないからです。

【解説】

「てつがく」とは何か、ということに一つの決まった答えはありません。「てつがく」とは何かということを考えることもまた、「てつがく」の仕事でした。古代から現代まで、いろいろな人が「てつがく」し、いろいろな「てつがく」を見だし、いろいろな「てつがく」を表現してきました。

だからといって、どんなことでもいいというわけではありません。やはり「てつがくてき」なこととそうでないことの区別はあります。ライオンの「てつがく」は、やっぱり「てつがくらしい」と思います。でも、「風のとつがく」とも、「くじらのとつがく」とも、「海のとつがく」とも違います（工藤直子さんにはそういうタイトルの詩もあります）。

もし、あなたが「てつがく」について、倫理の教科書や国語辞典くらいのイメージしかないのであれば、少し難しいかもしれません。それらに書かれていることは、間違いだともでは言えませんが、どちらかといえば固定観念的な「てつがく」のとらえ方だからです。

「てつがく」のイメージをもう少しふくらませたいなら、「てつがく」について書かれたいろいろな本を読んでもみるのもいいでしょう。ただし、気をつけないと、「てつがく」について書かれた解説書は、常識や固定観念にとらわれたものである可能性もあります。

ほんとうは、ほんものの「てつがくしゃ」が書いた本を読むのがいいでしょう。でも、だれがほんものかということを見分けることは簡単ではありませんが。それに「てつがく」というタイトルがついていなくても、「てつがくてき」な本はいっぱいあります（身近に物の分かったひとがいれば、そのひとに聞いてみるのもいいでしょう）。

そうしてイメージがふくらんだら、そのイメージを何かひとつのもの（ひと、生きもの、もの）に託して、詩を作ってみましょう。もちろんその何かは、あなたのイメージする「てつがく」にふさわしい何かでなければなりません。